優秀賞　〈低学年の部〉

ありがとうの言葉はっしゃ三秒前

福岡県　福岡教育大学附属福岡小学校　三年
佐藤　由依

「こんな時はありがとうって言ってほしいな。」
せんたく物を受け取っただけのわたしにお母さんが言った。お母さんがたたんでくれたから、よく考えればそう言った方がいいかもしれない。でも、そんなふうに言われると、その言葉は口から出てこない。
　そういえば、わたしはお母さんにありがとうという言葉を言っているのかを考えたことがなかった。だから、一週間をふりかえってみると、全く言ってないことに気がついた。なんでだろう。わたしは、そんなにいやな子なのかな。弟とお父さん、お母さんの家族みんなはなかがいいから、べつにその言葉を使わなくてもいい気がする。ありがとうを言うことは大切で、もちろんお母さんにもつたえたほうがいいとわかっている。だから、ありがとうを言うように心がけてみた。一日が終わってみると一回も言えてなかった。いつ言えばいいのか分からない。
　ある日、お母さんにかみの毛をみつあみにしてもらった。お母さんにむすんでもらうと、きれいになるからうれしい。
お母さんの
「できたよ。」
という言葉の後に、今が言えるときだとひらめいたけど、のどから声が出てこない。だから、
「うん。」
だけ言った。どうして、こんなに短い言葉が出てこないのだろう。心の奥がもやもやして、少しはずかしいからかもしれない。少しおちこんだ。
　ある日、お茶を飲みにれいぞう庫の前に立つと、ドアに目がくぎづけになった。ドアには、わたしがお母さんに書いた手紙がびっしりと七まいはられていた。そこには、「いつもみんなのためにはたらいてくれてありがとう。」「やさしくしてくれてありがとう。」「がんばってくれてありがとう。」「勉強を教えてくれてありがとう。」「元気をいつももらっているよ。ありがとう。」「わたしたちを見守ってくれてありがとう。」と書いていた。自分の手紙を読みかえすと、ありがとうを書きすぎていておどろいた。わたしは休みの日になると、お母さんによく手紙を書く。つかれた顔のお母さんに読んでよろこんでほしいからだ。どうしてれいぞう庫にはっているのか聞いてみると
「ありがとうって書いてくれる気持ちがうれしいし、すぐに見えて元気が出るからだよ。」と言われた。わたしは、いつの間にか感しゃの気持ちを文字でたくさんつたえていたんだ。ちゃんとつたえていたことに少しほっとした。
　たくさんのありがとうが書けたわたしだから、すぐに言えるようになる気がする。
「お母さんありがとう。」この言葉はもうすぐわたしの口からとび出していくよ。